

会議等結果報告

名称	令和7年度 第2回 上富良野町学校給食のあり方検討委員会
日時	令和8年3月17日(火) 18:00~20:00
場所	上富良野学校給食センター 上富良野町社会教育総合センター 大集会室
出席者	委員 10人 高松教育振興課長、新井学校教育班主幹、学校給食センター 田原栄養教諭 13名
内容	<p>○18時00分～ 学校給食センター(調理室)視察 新井主幹から内部の設備機器、作業動線や施設劣化の状況について説明した。</p> <p>○18時30分～ 社会教育総合センターにて会議開始 高松課長より、第1回検討委員会(R7.9.1)から資料作成等の都合により間隔が空いたことへの謝罪後、次第に基づき説明した。</p> <p>1. 委員長挨拶(岸山) 視察から始まりお疲れ様です。 今回も実のある議論ができればと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1)上富良野学校給食センターの現地視察について(高松)</p> <ul style="list-style-type: none">・現地視察及び資料1により、現施設の設備、平面配置、動線や作業状況の他、施設面積について説明。 <p>(2)参考資料～近年の整備事例について(高松)</p> <ul style="list-style-type: none">・資料2により、道内自治体での建設事例を説明。例示施設は令和3年開設、提供数800食/日、建設費用12億1千万円だが、現在の建設コストは当時の約1.4倍となっている。・床面積は1Fの調理部分が約970㎡で、現施設全体の2倍近い。・平面計画は汚染作業エリアと非汚染作業エリア、アレルギー対応調理室やコンテナ洗浄エリア等が明確に区分されており、担当する調理員も専任となっている。・衛生管理、安全安心対応等や防災機能等の項目について、現施設と近年の整備事例を比較しているので参考にされたい。 <p>(岸山) 各委員より、視察及び参考資料の説明を受けた感想や意見を頂きたい。</p> <p>(桑原) 限られた環境の中で毎日調理作業していること、新しい施設の建設には相当な建設費が必要となることが分かった。</p> <p>(本間) 初めてセンター内部を見た。狭さと床の劣化を確認した。 夏は虫の侵入も考えられ、衛生管理が大変だろうと感じた。 新しく建てるなら費用をどう捻出するのか、子どもの数は減っていくことも考える必要がある。</p>

(金山) 参考例の建設費用を聞くとどうすれば良いのか考えてしまう。

(加藤) 初めて見た。調理員の日頃の大変さが分かったので快適な環境で働いてほしいと思う。

子どもたちには地元で採れた食材を食べてもらいたい。

子どもの数が減ることも合わせ、バランス良く、慎重に考える必要がある。

(立崎) 建物は古いが調理器具は素晴らしい設備。衛生面で不備があることは理解した。

建設費用が嵩むことはわかるが、建て直してほしいし、上富良野産の素材を使った給食を子どもたちに提供してほしい。

働いている調理員の方々の努力は素晴らしいと感じた。

(菅原) 夏の暑さ、冬の寒さの中で作業することの大変さは過去の経験から理解する。

衛生管理をしっかりされていると感じた。食事は身体をつくるために大事なこと。

なるべく近い所で採れたものを提供することは維持してもらいたい。

人口推移、施設規模、場所や既存改修など、いろんな考えをもって進めてほしい。

(森井) 立地的にも厳しい中、職員の努力で美味しい給食を作っていることは素晴らしい。

建てる場合も様々な課題はある、子どもたちにとって何が良いかしっかり考えたい。

(野原) アレルギー面の対応は今の施設では難しいことと感じた。新しい施設も場所、人員や費用の面で難しいと理解するが、アレルギー対応が必要な子どもたちがどんどん増えていくことを考えると何らかの対応は必要だと思う。

(軽部) 過去に見た古い自校式の調理場と比較しても、清潔に保つために非常に努力されていると感じた。

子どもは減るが、建替で「子育てにやさしいマチ」だとアピールすることもできる。

「マチをどうするか」「まちづくり」という広い視野を持たなければ、学校給食の面だけで考えていくことは厳しいのではないか。

新しく建てる場合、今より人員が必要になると思われ、「働く場がある」というアピールもできる。

(岸山) 現場の栄養士としての意見はあるか。

(田原) 調理員にとっては、夏の暑さによる作業環境が一番厳しいと思う。

(岸山) 厳しい施設を、かなり工夫されて綺麗に管理されているという印象を持った。

参考事例と作業動線を比較すると、もう少し改善できれば調理員も楽に働けるだろう。また、調理員が頑張っても施設の環境の要因で食中毒の恐れがあるという部分は気の毒と感じた。

アレルギーへ対応することも大事。防災施設としての機能比較もしているが、新しく建てるなら複合的な用途を持つ施設としてできたら良い、多機能ではないアナログな調理機器も災害時には役立つことも考慮したい。

整備する際、考えられる補助金は何がありますか。

(新井) 文科省と防衛省の補助金が活用できる可能性がある。

(3) 給食に関するアンケート調査の実施について (高松)

- ・ 今後、給食のあり方を検討するにあたり、どんな方向性に進んで行けば良いか、実際に食べている児童生徒と教員、そして保護者の給食に対する考え方を知っておく方が参考になると考え、アンケート調査を行いたい。
- ・ 設問、実施期間と方法、対象学校や学年について (案) で示したので意見を伺いたい。

- ・期間は、新年度に入ってから実施し、集約は5月中旬過ぎ。
- ・対象は小中学校及び高校の全学年の子どもたち、その保護者と教職員
- ・回答はQRコードからwebフォームへ回答する形式
- ・小1～2年生を対象とすること、かつ授業での取り組みが可能か意見を頂きたい。
- ・設問内容は、子どもたちには給食の味付け、量、温度、好きな主食や完食するか等を、保護者と教職員へは、給食の感想の他に、給食提供に関してアレルギー対応、地産地消、今後の提供方法や学校給食への期待等となっている。

(各委員から)

○対象について

- ・小学1年生は給食の喫食期間は質問の理解度から考えて外し、小学2年生以上で良いと思う。

○期間について

- ・小学生は説明と入力のために授業時間1コマの確保が必要。そのため、実施は運動会後の6月中旬が望ましい。

○方法について

- ・児童生徒に対し、タブレットを使いWebフォームから入力する方法で問題ない。

○設問について

1. 児童生徒

設問4, 5

- ・「温かい」「冷たい」メニューがどの献立を指すのか分かりづらい。具体的に「みそ汁やスープの温度は？」と聞いた方が答えやすい。

設問10

- ・残食に関する質問だが、小食な児童は最初少なく盛ってお替りに対応する場合があります、設問の目的がわからないが正確な把握は難しいと思われる。

2. 保護者、教職員

設問3

- ・給食の満足度を回答するには、例えば1週間分の献立の量や栄養価等の情報提供、試食の機会を設ける等が必要。
- ・満足度は子どもの設問にあるため不要

設問7

- ・アレルギー対応は、該当する子の保護者や担当する教員とそうでない場合の受け止め方が違う。「食物アレルギーのお子さんを持っていますか？」等、属性確認の設問が必要
- ・当事者の方は、品目以外にも要望があると思うので食物アレルギーに関する自由記述にした方が良い。

設問 保9、教8

- ・「完食すべきか」の考え方を聞く目的がわからない。

設問 保12、教11

- ・重要な問いだと思うので、回答数の制限を無くしてはどうか。

○その他

- ・各設問の目的を明確に。量が多く、目的がぼやけている。
- ・自由記述欄が必要

- ・事務局でアンケート修正(案)を作成し、検討委員からの意見を集約し精査してほしい。
- ・本当に聞きたい設問は、保4、9、10、11 だと思うので、アンケート形式ではなく、保護者に対し給食センターの現状と、あり方検討委員会で協議している経緯を説明した上で、意見を聞き取りしてほしい。

(岸山) 委員の意見をまとめると、アンケートに協力いただける方(保護者、教職員)に対して、チラシや文書等で今日私たちが見た問題点や、このようなことを話し合っていることを伝え、共有した上でアンケートを実施した方がよい。というのが検討委員会の総意だと思う。

(軽部) 保護者への説明機会としてPTA総会がある(4/11 上小・東中小、4/12 上中、4/18 西小) 5分程度なら説明時間を割けると思うので、教育委員会で説明してほしい。そうでなければ本当の答えは出ないと思う。

(4)今後のスケジュールについて (高松)

- ・アンケート調査の内容修正により、**資料4**で示した集約スケジュールの変更が想定されるが、全体スケジュールとして、今年の11月末頃までに最後のまとめを行いたいという内容で捉えてほしい。

3 その他

(菅原) 第3回委員会の時は役員改選等で委員が変わるかもしれない。令和7年度に検討した概要を資料として添付するなど配慮してほしい。

(高松) 承知した。

(立崎) せっかくこれまで現地視察や議論をしてきた。大事な検討会議なので、PTA会長を降りても今の委員で続けた方がよいと思う。

(高松) 事務局で検討する時間を頂きたい。

(20:00 終了)